

本多啓七先生の逝去を悼む

本瀬 晴雄

〒939-0617 富山県下新川郡入善町春日455

A Memory of Late Mr. Keishichi Honda

Haruo Motose

平成15年10月28日、本多啓七先生が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。先生から頂いたご指導と人生の教訓は数多く、何かに着けてふつふつと思いだされて来ます。先生には非常に多くの業績があり、それを挙げて称えることも追悼の方法ですが、私は、在りし日の先生と共に行動したときのことを語ることで、追悼の意を表したいと思います。

「平成7年8月11日、記録的局地豪雨が黒部峡谷を襲い、峡谷内部に崖崩れ、土砂流出、出し平ダムの流木の堆積等の惨状をもたらした。さらに、出し平と釣鐘の間で、土砂崩れによって峡谷鉄道の軌道が切断され、猫又の作業員合宿所、鐘釣温泉等で合わせて69人が孤立状態となり、航空自衛隊小松基地の大型ヘリと県警のヘリによる大救出活動が展開された。

また、愛本より下流の扇状地部には、新河動計画による構築物の一部流失、大量の流木の流出と堆積、国内唯一のアジサシの営巣地であった黒部川河口の砂州の流失、沖合300mほどまでの土砂の堆積等の被害もたらされた。」

これは、当時私が撮影したビデオにつけた解説の一部である。この大出水は、昭和44年8月以来の記録的大出水であることはよく知られている。これまでも、黒部峡谷に多くの業績を持っておられる本多啓七先生は、この災害に大変心を痛められ、何とかして猫又まで行きたい、今回の大量の土砂流出をもたらした猫又谷の崩壊状況を見たい、この崩壊の直撃を受けて土砂で埋まり、機能を停止してしまったという猫又発電所の状況を見たいなどと、沢山の思いが先生の脳裏に去来していたようである。

8月も終わろうとする頃、本多先生が「本瀬さん、建設省へ行って頼んでみようかノー」とポツリと言われ、私もお供をして建設省黒部工事事務所(現国土交通省北陸地方整備局黒部工事事務所)へ赴いた。

何課へ行ったかは別として、課長さんは「先生のお気持ちはよく分かりますが、何しろ災害復旧工事が進められている最中で、危険が多いので」と丁寧なお断りを受けてしまった。

「それなら、関西電力に頼んでみるけ」と本多先生が言われ、その足で宇奈月にある関西電力黒部川電力所へ赴いた。そこで、「電車は笹平までで、それから徒歩で5kmほどあります。途中には、電車の軌道が崖崩れで切られているところを渡ったりするので危険だから、関西電力の職員を一人つけましょう」と許可を得た。期日は9月6日、電車は午前7時18分朝一番の工事列車ということである。

いよいよ当日の朝7時過ぎに本多先生、若林一成氏と私の3名が峡谷鉄道へ行くと、既に関西電力の職員の方が、私たち3名のヘルメットを持って待っておられた。挨拶をしてヘルメットを受け取り、電車に乗り込む。本多先生は、いつもの山行きの服装に左右2本の杖。この頃既に足の具合が相当に悪く、足を引きずるようにして歩いておられた。この視察行に対する本多先生の意志は非常に強く、黒部川電力所へ向かう車の中で「現場を見ないで語ることはできん」と呟くように言われた言葉が、いつまでも私の耳に残っている。

電車は、柳川原の河川敷に流木を止める柵が作られ、そこで止められ流木が山のように積み上げられているのを右に見ながら、8時少し前、現在

ウセンゴヨウのことで、毬果がゴヨウマツより半分以上長いことからつけられたようです。カネクイモミはコメツガのことで、幹が堅くて打ち込んだ斧の歯が早くこぼれ落ちるからです。遠く離れた有峰の地で、樹木とかかわってきた生活を垣間見ることができます。有峰のかつての植物に関する唯一の文献であります。また、天然記念物調査、立山の緑化復元などの社会的な貢献度も高く、その中に緑化の折りの逸話があります。昭和50年代、室堂園地の玉殿の湧水の岩間に、ミヤマビャクシンの成木を移植し、「おれが死んでも生きてくれよ」と、愛でられたのです。誰もが活着は無理だと半信半疑でしたが、それがうまくつきました。私の緑化復元試験地が、その隣にあるので毎年現地に行くたびに見守っています。豪雨で株が露出したこともあります。元来岩場の植物だけに緑を失うことなく旺盛に育っています。先生のたくましい生涯を見る思いがします。

もう一つ、若いころの毛勝山登山があります。先生とベテランの尾山一則先生、笠井武夫氏と私の4人で、昭和31年8月24日から2泊3日で登りました。魚津大火の半ヶ月前のことです。先生は45歳、先生にとっても毛勝山は初めてだという憧



毛勝山登山。板菱手前の峡谷で夕食の準備をする。左から本多先生、長井、尾山先生 (1956.8.24)

れの山でありました。初日は阿部木谷の板菱手前でテントを設営し、2日目は早朝から毛勝大雪渓を登りつめ2,414mの頂上を目指しました。勾配が急な上にガスで視界が閉ざされ前方が見えぬ、まさに五里霧中の登山でした。午後1時過ぎガ

スが薄れ、目前に直立した荒々しい毛勝谷と、その上部に毛勝山の稜線が見え隠れしました。皆が歓声をあげ元気を取り戻して頂上を目指したのです。頂上で寄せ書きしたノートには午後2時15分とあります。尾山先生のメモは「全くえらい登山、登路がわからぬのにへいこうす」とあり、本多先生は「山男やっとのぼった頂上かな」とあります。県教委優良教員表彰記念の年賀状には、阿部木谷の激流を横切る先生の写真が添えてありました。先生にとっては、生涯忘れえぬ登山だったのです。

先生の幾多のご功績に対して社会的・国家的評価が高く、多くの受賞歴があります。主なものに富山新聞文化賞、県政功労表彰、秩父宮学術賞、全国環境功労表彰、内閣総理大臣表彰、勲五等双光旭日章などがあります。

先生のご葬儀は、ご家族や関係者が参列するなか、しめやかに行われました。魚津高校で教えを受けた昭和26年ご卒業の、園芸植物研究家古川仁朗さんは、寒牡丹を手にしてお別れのことばを述べられました。「先生、今年、初めて寒牡丹の花が咲きました。白い花と赤い花があります。かつて先生は白い花は劣性遺伝だが、皆等しく美しい花だ。人も同じことだ。人には劣性ということはない。といて私たちを教育してくださいました。この花をまず棺前にお供えします。」と。参列者は、この冒頭のことばに先生の若いころの素晴らしい教育理念に、また教師と生徒の深いきづなに胸を打たれたのであります。そして野山の生きとし生けるものを、分け隔てなく愛された先生のお姿を重ね合わせて、ありし日の先生を偲んだのであります。劣性なき、悔いなき先生の生涯に想いをあらたにしたのです。

毛勝山登山の折り、へとへとだったものが、毛勝の稜線が見えたとき嬉しくなりました。長くつらい登山で先が見えてきたことの喜びです。先生の晩年はつらい入院生活でしたが、いわば人生の先が見えてきた究極のひとつのように思います。想いを寄せて改めてお悔やみを申し上げます。

霊峰立山のミヤマビャクシンは、風雪に絶えて力強く見事に育っています。先生の願いを後々に伝えて行くことでありましょう。

の終点笹平に着いた。いよいよここから片道5km、往復10kmの歩きである。

我われは、太陽の照りつける軌道上を歩いたり、トンネルを抜けたり、冬期歩道の中を歩いたりしながら猫又に向かって進んで行った。その間、常に本多先生は先頭を切って歩いて行かれる。



写真1 冬期歩道を歩く一行

上流に行くにつれ、出水による惨状が次第に増してくる。出し平ダムに差しかかって、あっと驚いた。いつもは満々と水を湛えているダムが、砂で埋まっている。



写真2 砂で埋まった出し平ダム

出し平駅から1.5kmほど進んだ所で、軌道が右岸側の山腹の土砂崩れで切断されている。



写真3 土砂崩れで切断された軌道

いよいよ目的の猫又に到着したときには、余りに凄惨な惨状に、ただ立ち尽くすだけであった。発電所対岸の猫又谷から押し出して来た大量の土砂が、軌道を切断して本流に押し出し、流れを塞ぎ

止め、発電所の建物の一階にまで入っている。

我われが訪れたときには、本流を塞ぎ止めた土砂は既に取り除かれて流れがつくられていたが、建物の外側の土砂は掘削中で、発電所への鉄橋は腹が洗われそうなほどに埋まっていた。出水の最盛期には、冠水していたそうである。



写真4 猫又谷からの土砂が発電所に到達



写真5 掘削中の建物外側の土砂

往路には2時間半ほどかかり、猫又に40分ほど滞在して、帰路についた。やはり2時間半ほどかかって笹平に到着。ただ、帰路の途中で、建設省の課長さんの一行に出会ったことも、付け加えておく。電車の待ち時間もあって、宇奈月に午後2時半頃に着き、同行して頂いた関西電力の職員の方にお礼を言って、家路についた。

この視察行は、関西電力が本多先生の強い熱意に対して案内役の職員をつけてくれたことが、成功の大きな要因であったとも言えるが、何と云っても、関西電力黒部川電力所の所長を動かした、「現場を見ないで語ることはできん」と言う本多先生の強い意志と、事実に基づく科学者の実証主義があってこそこの事であったと思う。

このような本多先生の姿に触れ、そして行動を共にさせて頂いたことに、深く感謝しております。ここに本多啓七先生のご冥福を祈り、追悼の言葉と致します。

平成16年度生物関係 特別展・講演会のご案内

魚津水族館

特別展示「教科書魚達—教科書の中の水族館—」

期間：平成16年7月17日(土)～11月末日

小学校の教科書に出てくる水生生物の中から、メダカ、カブトガニ、ザリガニなどを展示解説します。

問い合わせ先：魚津水族館

TEL：0765-24-4100 FAX：0765-24-4128

ホームページ

<http://www.city.uozu.toyama.jp/suizoku/>

富山市科学文化センター

特集展示「富山のトンボ」

期間：4月17日(土)～6月13日(日)

富山県産トンボ類の標本を二橋コレクションを中心に紹介し、館収蔵の県外の日本産トンボ類標本も展示紹介します。また、トンボ類の生態を写真で紹介いたします。

富山県産トンボ類の全種、日本産トンボ類の約70%の種を見ることができます。

トンボ類標本：

二橋コレクション 34箱

坂井コレクション・加治コレクション・

田中コレクション 7箱

富山では見られない日本のトンボ 6箱

トンボ類生態写真 40枚

ふしぎいっぱい自然と科学

期間：9月25日(土)～10月11日(月・祝)

10月21日(木)～11月14日(日)

天気や月のみちかけ、酸性雨、身のまわりの生き物などを模型や標本、写真などで紹介します。

問い合わせ先：富山市科学文化センター

TEL：076-491-2123 FAX：076-421-5950

ホームページ

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

富山県中央植物園

企画展「ポスターで巡る日本の桜」

期間：4月2日(金)～4月30日(金)

特別展「野生ラン展」

期間：5月3日(月・祝)～5月5日(水・祝)

企画展「私の植物写真展」

期間：6月25日(金)～7月21日(水)

特別展「食虫植物展」

期間：7月23日(金)～8月4日(水)

特別展「水草」

期間：8月6日(金)～9月8日(水)

写真展「森の妖精 きのこ」友の会きのご部会

期間：10月1日(金)～11月3日(水)

特別展「園芸菊と野生菊」

期間：11月5日(金)～12月8日(水)

企画展「干支にちなんだ植物」

期間：12月10日(金)～2005年1月12日(水)

「平成16年度研究発表展示」

期間：2月4日(金)～3月1日(火)

企画展「私の植物画展」

期間：3月8日(火)～3月30日(水)

問い合わせ先：富山県中央植物園

TEL：076-466-4187 FAX：076-465-5923

ホームページ <http://www.bgtym.org>